

研究機関：広島大学

研究課題名 下部消化管疾患の臨床像と手術治療成績の検討

研究責任者名 広島大学病院 感染症科 教授 大毛宏喜

研究期間 2019年6月14日(倫理委員会承認後)～2031年12月31日

対象者

2005年1月から2030年12月の間に、広島大学病院消化器科で手術治療を受けられた患者。

#### 意義・目的

消化管腫瘍や炎症性腸疾患における手術治療の有用性は明らかですが、術式や他の治療との組み合わせやタイミング、手術後の補助的な治療法の選択などに関して何が最良の方法かは、まだ検索段階の部分もあります。

これらを明らかにするために、様々な要因と手術治療成績との因果関係を検討する研究を計画しました。

#### 方法

本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。

カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査(血算、CRP、肝機能、腎機能、電解質、腫瘍マーカー(CEA、CA19-9、CA-125)、血清アルブミン、血清蛋白、凝固系)、術前並存リスク(charlson comorbidity index: CCIなど)、病理検査結果、治療のための遺伝子解析結果、放射線画像(CT、MRI、X線、PET-CT、注腸)、周術期管理情報(手術時間、麻酔時間、出血、輸血の有無、術式選択(腹腔鏡、開腹、その他)、術前リスク評価(ASAなど)、予防的または治療的抗菌薬選択、合併症など)、再発の有無、生存の有無などです。

(個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ)

#### 共同研究機関

なし(本学のみでの研究です。)

#### 試料・情報の管理責任者

感染症科 教授 大毛宏喜

#### 個人情報保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。